

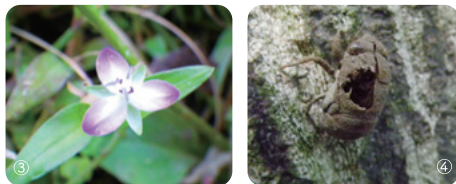


ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura

contents

特集	ホンドタヌキ
連載	樹木区日誌
催事	秋のイベント etc
ほか	事務所の展示



①これから熟すコナラのどんぐり。②キアゲハの幼虫。成長するにつれ鮮やかな緑と黒の姿になるが、小さなうちは鳥のフンに擬態した黒っぽい姿をしている。③秋の湿地に咲くイボクサの花。④サクラの木によく集まるニイニゼミ。抜け殻には全身に泥がついている。

暑くてやせちゃう



ひろまちだより 2023 秋号 (2023年9月発行)

発行 鎌倉広町パートナーズ

鎌倉広町緑地管理事務所
鎌倉市津 1133 TEL: 0467-32-5112
<http://www.kamakurahiomachi.com/>





縄張りの主張や、引越しの挨拶など
 掲示板的役目があると考えられるタヌキの「ためフン」。
 やぶの中や林道、開けた場所などさまざまな場所で見つかる。
 雑食のタヌキのフンには植物や昆虫、人工物までさまざまなものが含まれている。

人間の生活を取り入れ、都市の公園や住宅地にも住みつく

Animals that adopt human lifestyles and live in cities

タヌキの主な生息地は里山で、地中の穴や岩のすき間などをねぐらとする一方、都市化にも適応し、民家の床下やU字溝などを巧みに利用し、都市部の公園や住宅地でも普通に見られるようになってきました。
 果実や種子、小動物、昆虫などあらゆるものを食べ、農作物や生ごみをあさることもあります。

タヌキとよく似た動物たち

「同じ穴のムジナ」であるタヌキとアナグマは、姿がよく似ています。広町緑地でニホンアナグマが観察されたことはありませんが、タヌキにやや姿が似たハクビシンや、外来種のアライグマが生息しています。
 丸っこいタヌキの足跡に比べて、アライグマの足跡は人の手のように指が長く、スイカなどの農産物を器用にくりぬいて中身を食べることもあります。
 床下や地中の穴などを好んですむタヌキに対して、アライグマは（本国の北アメリカでは）大木の樹洞などを利用して子育てをします。



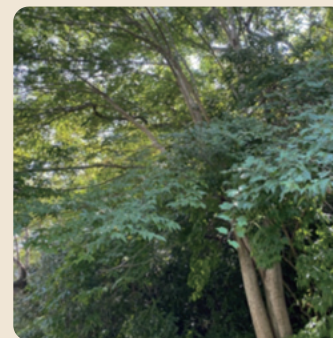
夏毛のタヌキはやせた犬のようになり
 冬毛になるとふっくら丸っこくなる



アライグマは
 しっぽのしましまが目立つ



広町緑地の明るい林縁などに比較的多く生える落葉広葉樹のムクノキは、ケヤキとそっくりな樹形で大木になるため、樹名板がないと気にもとめない樹木のひとつです。はっきり違うのは樹皮に縦すじが入ることです。葉の表面がザラザラしていて、かつては研磨剤として使われてきました。ムクドリが黒い実を好んで食べることからこの名前がついたと言われています。実は広町緑地には1ヶ所ムクノキを大切に生かし、「ムクノキ林」となっているエリアがありますので、興味がある方は管理事務所までおたずねください。



太さ1m以上高さ20m以上になります



樹皮は成長すると縦のすじが入ります



葉は表面がザラザラします

イベント情報

- 9月23日(土) 里山さんぽ「秋の植物観察会」
 - 10月8日(日) 稲刈り祭
 - 10月15日(日) 子供向け企画 どんぐり遊び
 - 10月29日(日) 子供向け企画 サトイモ・サツマイモ掘り
 - 11月中旬 こんにやく作り教室
 - 11月18日(土) 広町収穫祭
 - 12月10日(日) 子供向け企画 クリスマスリース作り
 - 12月16日(土) 里山さんぽ「広町さんぽ(紅葉散策)」
- ※日程の確定していないものはホームページでご確認ください



秋のイモ掘り

管理事務所よりお知らせ 外を歩くのに気持ちいい季節になってきました。

事務所の廊下では、広町をフィールドに活動している個人、団体の作品展示が始まっています。年内は鳥や昆虫などの生物写真を展示予定です。ぜひ足をお運びください。